

# 第1回ビジョン策定委員会（部会合同開催）の振り返り

## 1. 浅草地区の課題と検討の方向性

### まちの特性と課題

#### A:回遊・滞在

##### まちの特性【強み】

- ・雷門～仲見世～浅草寺周辺は地区の特徴的な空間
- ・個性的な通りや界隈が集積し、文化財・観光施設が集積

##### まちの課題【弱み】

- ・歩行者の一部エリアへの集中
- ・案内機能の充実やトイレ環境の整備
- ・狭小な駅前滞留空間

#### B:交通結節

##### まちの特性【強み】

- ・鉄道やバスなど、多様な交通手段でのアクセスが可能
- ・舟運や人力車など他地区には少ない多様な交通機能が集積

##### まちの課題【弱み】

- ・鉄道間の乗換利便性の向上
- ・交通機関の乗降場のネットワーク化
- ・公共駐車場の容量、利用状況の改善
- ・放置自転車・放置バイク対策

#### C:防災・避難

##### まちの特性【強み】

- ・隅田公園などのオープンスペース
- ・自主的な防災活動の展開
- ・地元の防災意識

##### まちの課題【弱み】

- ・地域のさらなる防災性の向上
- ・帰宅困難者への対応
- ・発災時の適切な避難誘導
- ・狭小な駅前空間の改善

#### D:水辺空間

##### まちの特性【強み】

- ・隅田川の水辺空間に隣接した立地
- ・テラス、船、リバーウォークなどの親水空間

##### まちの課題【弱み】

- ・水辺空間への円滑な誘導
- ・にぎわいある水辺空間の創出
- ・船着場の柔軟な運用

#### E:地域力

##### まちの特性【強み】

- ・伝統的な祭り・イベントの開催
- ・商店街単位でのまちづくりの推進
- ・六区ブロードウェイでのエリアマネジメントの取組み開始

##### まちの課題【弱み】

- ・コロナ禍による社会的変化への対応
- ・地域の力を活かした取組みの強化（エリアマネジメント）

### 社会環境の変化を踏まえた今後のまちづくりに重要な視点

#### ①. 多様性への対応

##### (1)多様な属性への配慮

ユニバーサルデザイン、多言語・多文化対応など

##### (2)多様な価値観の広がり

多様なライフスタイル・働き方、コト消費など

#### ②. 社会的リスク・要請への対応

##### (1)自然災害の激甚化や感染症などのリスクへの対応

防災・減災まちづくり、観光危機管理など

##### (2)環境負荷軽減・持続可能な発展

グリーンインフラ、持続可能な観光・まちづくりなど

##### (3)人口減少時代の都市基盤の維持・高質化

都市アセットの利活用、リノベーションなど

#### ③. デジタル化を軸とした新たな価値の創出

##### (1)オンラインとリアルの融合・双方向化

オンラインとリアルの融合・併用など

##### (2)デジタル化で広がる新たな経済・消費スタイル

シェアリングエコノミー、キャッシュレス決済など

##### (3)Society5.0の推進

ビッグデータの活用、AI、DXなど

##### (4)都市・移動の技術革新

ニューモビリティ、MaaSなど

#### ④. 新しい生活様式に対応した都市環境形成

##### (1)混雑緩和・交通利便性の向上

過密の回避、時間分散(早朝・夜間)など

##### (2)付加価値・独創性によるブランド力向上

本質に触れられる体験、シティプロモーションなど

##### (3)居心地が良く歩きたくなるまちなかの創出

ウォークアブル・アイレベル、ゆとりある空間など

#### ⑤. 多様な主体によるまちづくり

##### (1)多様な主体の連携や人材育成

公民連携、エリアマネジメント、担い手の確保・育成など

### 浅草のまちづくりにおける検討の方向性

#### A:回遊・滞在

- ・空間的・時間的賑わいをひろげる取組み
- ・おもてなしによる新たな回遊や快適な滞在の実現



#### B:交通結節

- ・国際観光拠点として、誰もが使いやすく利便性の高い交通環境の実現



#### C:防災・避難

- ・地域の安全性向上に向けた取組み
- ・帰宅困難者への一時滞在候補施設の確保と適切な避難行動



#### D:水辺空間

- ・水辺を活かしたまちづくり
- ・舟運の活性化への取組み



#### E:地域力

- ・魅力を向上する地域力の創造
- ・コロナ禍を踏まえた持続的なまちのあり方検討



## 2. 浅草地区の将来イメージ (たたき台)

### 浅草地区の目指すべき姿 (案)

回遊・滞在	都市空間を有効に活用して、浅草地区の多様な魅力を感じながらゆったりと地域をめぐりたくなるウォーカブルなまちなかの形成
交通結節	全ての人の移動が快適で便利になり、周辺地域を行き来したくなる交通結節機能の円滑化と交通手段の多様化
防災・避難	暮らす人も、訪れる人も安全・安心に過ごせる防災まちづくり
水辺空間	暮らす人も、訪れる人も気軽に足を伸ばしたくなる居心地のいい水辺空間の形成
地域力	地域の新しい取組を引き出し、地域と共に考えるコロナ禍を踏まえたまちづくり



周辺エリアとの関係を踏まえた浅草地区の目指すべき姿のイメージ (案)

浅草地区の目指すべき姿や検討の方向性から、各分野における論点について検討

### ビジョン検討の論点 (案)

回遊・滞在	にぎわいをひろげる取組 おもてなし環境の整備	論点1	ウォーカブルな空間づくり
		論点2	浅草・日本の魅力を伝える観光プロモーションの推進
		論点3	観光行動を支えるサービス環境の向上
		論点4	歴史や文化を感じる魅力的な景観の創出
交通結節	だれもが使いやすい交通の仕組み	論点5	交通結節点の整備
		論点6	多様な交通手段による周辺地域との回遊性向上
防災・避難	防災力の向上	論点7	普段から安心して過ごせるまちづくり
		論点8	国際観光拠点にふさわしい防災機能の確保
水辺空間	水辺を活かした魅力づくり	論点9	隅田公園と一体となった水辺空間づくり
		論点10	舟運を活かした活動の展開
地域力	地域力の創造	論点11	柔軟で持続可能なまちづくり
		論点12	公民連携のまちづくり

委員会及び部会の議論・意見を踏まえ、浅草地区の将来像 (コンセプト) を検討・深度化



### 3. 第1回ビジョン策定委員会における主な意見

#### (1) 委員（学識経験者）

- ・どこか一色ではなく、違うカラーのエリアが集まって地域の大きな力になる、そういったビジョンにしたい。
- ・現ビジョンについて、実現できなかったものについて理由も含め考察するなど、現ビジョンの総括をもう少し丁寧に行う必要がある。
- ・東京の中での浅草の位置付けや押上、スカイツリー、上野などとの関係性を考えていく必要がある。
- ・上辺の観光に依存すると、将来違う感染症で観光客が来なくなる可能性があるため、近くに住んでいる人の活動をどうつくり上げていくかが重要となる。
- ・生活と観光の関係、商売と観光の関係を整理して、ビジョンに盛り込んでいかないといけない。  
観光だけを考えるのではなくて、まちづくりや生活のこともしっかりと捉えていくことが大事である。
- ・墨田区側の隅田公園は、人が集まるようになり、川沿いの変化が起きている。築地では舟運ポートの検討もされている。隅田川軸を考えていくことが大変価値が高い。
- ・多くのビルは、これから耐震補強や建替えをしていかなければならない。  
その際に、どのように建て替えるか、皆で共通のイメージを持つことが重要である。  
浅草というブランドをいかに維持しながら、まちをリニューアルしていくかを皆で考えていく必要がある。
- ・地震による建物倒壊危険度が高く、将来的に建替えとなる建物が多い地域である。  
建物が一度建て替わると、40～50年はそのままだになるので、未来志向で上手に建て替わらないといけない。

#### (2) 委員（地元関係等）

- ・自分を中心とした小さいエリアでどうやっていくか、それをどう広げていくかが重要である。  
浅草は、東西南北に面白いものがあるので、一日では見切れないと見せていく工夫が必要である。
- ・北の言問通り、南の浅草通り、西の国際通り、東の隅田公園という狭い範囲から、はみ出したところまで考えていく必要がある。  
上野や北千住の路線価と比較しても、もっと繁盛しなければいけないまちだと思う。  
観光一辺倒というより、様々な機能や用途が入っている繁華街のようにすることを考えていけたら良いと思う。
- ・20年先を考えると、女性の意見を取り入れたりすることも重要である。  
気軽に意見を言えたり、実行できたりするような、若い世代がチャレンジして経験を積めるような場があっても良いと思う。

#### (3) オブザーバー（関係機関等）

- ・滞在時間や消費額の減少といった課題はあるが、これから色々な更新が起きてくるので、逆にチャンスだと感じている。  
若い方々が入ってこられるようなまちづくりにトライできると良いと思う。
- ・滞在時間を増やすためには、歩きやすく、歩きたくなるまちなかであることが重要である。様々な事例などを示しながら、一緒に検討していきたい。
- ・建替えの時期が迫ってきているところについては、60年後、70年後にも目を向けながら、進めたほうが良い。

【現ビジョン（平成19年6月策定）の概要と進捗】

◆ 「完了」プロジェクト (5プロジェクト)

- ⑧浅草文化観光センター改築
- ⑭街並み景観整備
- ⑯浅草通りシンボルロード整備
- ⑰かっぱ橋本通り整備
- ⑳水上バス乗り場建替えは完了している

◆ 「未了」プロジェクト (2プロジェクト)

- ①駅の結節機能及び駅周辺を含めた整備
  - ⑫都市機能再生整備ゾーン街並み整備
- は未了であり、鉄道事業者との協議状況を踏まえた検討が必要である。

◆ 「継続」プロジェクト (15プロジェクト)

上記以外は、継続して実施していく。

		進捗状況	評価	備考
アクセス環境充実プロジェクト	1 交通結節点の再整備	①駅の結節機能及び駅周辺を含めた整備	未了	浅草駅周辺を含めた整備は、鉄道事業者等との協議が必要
	2 ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進	②地域全体のバリアフリー化<優先>	継続	バリアフリー基本構想の改定を踏まえながら、バリアフリー施策を一層推進
		③浅草各駅周辺・地域内の案内強化	継続	情報の更新など、誰もがわかりやすい観光案内板として維持・管理
	3 「伝統のまち」と「新しいまち」の連携強化	④交通網の拡充 ⑤交通システムの新設<シャトルバス等><優先>	継続	新たな交通手段も含め検討
	4 新たな舟運ルートの整備	⑥新たな舟運ルート整備	継続	東京都の「水辺空間活用(舟運)ワーキンググループ」(H27.8~)の内容も踏まえながら検討
5 観光バス乗降・待機システムの構築	⑦観光バス乗降・待機システムの構築	継続	観光バスの来訪台数の推移や駐車場・乗降場の需要予測などを踏まえ、適切な運用を検討	
賑わい創出プロジェクト	6 文化観光資源の育成・創出と情報発信の強化	⑧浅草文化観光センター改築<優先>	完了	—
		⑨観光情報発信力強化<優先>	継続	継続して実施
	7 にぎわいを誘導する街並み整備の誘導・推進	⑩芸術芸能の支援育成、生活文化の保存等	継続	継続して実施
		⑪六区興行街地区整備	継続	エリアマネジメント団体等と協働し、にぎわいを誘導
		⑫都市機能再生整備ゾーン街並み整備	未了	都市機能の再生については、新たな社会の変化を踏まえた検討が必要
	8 街並み整備と連動した歩行空間の整備	⑬街並み整備	継続	ガイドラインの適切な運用を継続
		⑭街並み景観整備<カラー舗装等><優先>	完了	要望があれば随時実施
		⑮道路事業	継続	快適な歩行空間を検討
	9 浅草と上野を結ぶプロムナード整備	⑯浅草通りシンボルロード整備<優先>	完了	—
		⑰かっぱ橋本通り整備	完了	街並み景観整備は、要望があれば随時実施 「かっぱ橋本通り(西浅草)」以外の電線類地中化については、整備の検討が必要
水辺活性化プロジェクト	10 安心・安全まちづくりの充実	⑱防犯活動の強化	継続	継続して実施
	11 水辺の散策ルートづくり	⑲親水テラス延伸<優先>	継続	親水テラス延伸については完了 まちから水辺への誘導施策等を検討
		⑳水上バス乗り場建替え<優先>	完了	—
	12 水上交通拠点の整備	㉑-2 新船着場整備等	継続	事業者に対する周知等により、定期船・不定期船の利用を促進
	13 川並み景観づくりへの誘導	㉒川並の景観形成	継続	適正な運用を継続 まちづくりの進捗や建物の更新にあわせたスーパー堤防整備を検討
14 緑と水辺を活かす隅田公園づくり	㉓隅田公園整備・各種イベント開催	継続	隅田公園の魅力向上に向けた取組みを検討	

## 【新ビジョンにおいて、引き続き検討が必要となる事項 ※浅草地区まちづくり基礎調査（R3.3）より作成】

### 「未了」プロジェクト

#### ●アクセス環境充実プロジェクト

##### 1 交通結節点の再整備

###### ①駅の結節機能及び駅周辺を含めた整備

地域全体の交通流動や歩行者動線、交通結節機能の整備は、浅草駅周辺のハード整備と連動することから、引き続き、鉄道事業者をはじめとする関係者間の協議を進めていく。

###### ○交通結節点の再整備

- ・浅草の玄関口に相応しく、鉄道各線、バス、水上バス等の交通機関との交通結節機能の再構築を誘導し、利便性と安全性を高めた交通拠点の整備を推進する。
- ・花川戸地区全体の都市機能のあり方の調査・検討に併せ、東武線浅草駅及び周辺地域の一体的な土地利用の更新など、都市計画手法を活用して効率的な土地利用を誘導する。
- ・馬道通り、雷門通り、江戸通り、つくばエクスプレス、大江戸線との交通流動、隅田川への歩行動線のあり方について検討する。

出典：「浅草地域まちづくり総合ビジョン-各プロジェクトにおける整備メニュー」より

#### ●賑わい創出プロジェクト

##### 7 にぎわいを誘導する街並み整備の誘導・推進

###### ②都市機能再生ゾーン街並み整備

地域全体の景観に対する意識をより一層醸成するとともに、都市機能のあり方を検討する地区においては、機能更新との相乗効果をもたらすような街並み整備を誘導していく。

###### ○賑わいの街並み整備の誘導・推進

- ・浅草地域におけるそれぞれの地区の特性を活かした都市景観を誘導し、江戸、明治、大正、昭和の時代を体感する浅草に相応しい街並みづくりを推進する。地上だけでなく、タワー展望台から見渡した景観についても考慮する。
- ・浅草らしさの街並み整備は、地域住民等の合意の下、地区計画や景観地区指定などの手法を活用する。
- ・商店街等が行う、賑わいの街並み整備を支援する。
- ・浅草の玄関口である東武線浅草駅周辺を含む花川戸地区全体の都市機能のあり方を検討し、街並み整備を地域住民の発意と合意の下で進めていく。

出典：「浅草地域まちづくり総合ビジョン-各プロジェクトにおける整備メニュー」より

### 「継続」プロジェクト

#### ●アクセス環境充実プロジェクト

##### 2 ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進

###### ②地域全体のバリアフリー化

台東区バリアフリー特定事業計画の令和2年度進捗状況は全体の合計では76.9%となっており、一定の成果が出ている。今後予定しているバリアフリー基本構想の改定を踏まえながら、バリアフリー施策の一層の推進に向けて、取り組む必要がある。

###### 【トピック】

- ・優良タクシー乗り場の運用開始（令和2年）  
松屋浅草西側タクシー乗り場を、安全・サービスの両面において一定の評価を受けた運転者・事業者が入構する「優良タクシー乗り場」として運用。



▲優良タクシー乗り場

###### ③浅草各駅周辺・地域内の案内強化

「台東区観光案内板整備方針」に基づき、行動の起点となる箇所や駅の出入口などに観光案内板を整備し、基数は充足している。

今後は、情報の更新や多言語化など、誰もがわかりやすい観光案内板として維持・管理していく必要がある。

※本調査の対象範囲においては、20基の観光案内板を整備済。

##### 3 「伝統のまち」と「新しいまち」の連携強化

スカイツリーシャトルの運行や東京下町周遊きっぷの発売などにより、交通網の拡充が図られてきた。今後も、国際観光都市にふさわしい環境整備を推進するため、多様なニーズに応じた新たな交通手段も含め、検討していく必要がある。

##### 4 新たな舟運ルートの整備

平成23年から水辺ラインの定期便が就航しており、浅草・お台場クルーズ1日5便、浅草・竹芝クルーズ1日4便が就航中である。

今後の新たな舟運ルートについては、東京都の「水辺空間活用（舟運）ワーキンググループ」（H27.8～）において検討されており、検討状況に応じて関係機関との調整が必要である。

### 5 観光バス乗降・待機システムの構築

予約システムの導入や乗降場の整備を行い、安全安心な環境整備に取り組んでいる。コロナ禍以前は多数の観光バスが来訪していたが、コロナ禍の影響により観光バスの来訪台数は激減している。

今後は、観光バスの来訪台数の推移や駐車場・乗降場の需要予測などを踏まえ、適切な運用を検討していく必要がある。

#### 【トピック】

・観光バス予約システムの導入(平成 29 年 2 月)

観光バス予約システムによる、駐車・乗車施設(台東区民会館駐車場、今戸駐車場、清川駐車場、二天門乗車場、東武浅草駅乗車場)の、インターネット上での予約受付を開始。



図：駐車場・乗降場位置図

出典：台東区ホームページ「観光バス予約システムの流れについて」より

### ●賑わい創出プロジェクト

### 6 文化観光資源の育成・創出と情報発信の強化

国際観光都市浅草の魅力を、引き続き効果的に発信する必要がある。

#### 【トピック】

・浅草文化観光センターの開業(平成 24 年度)

平成 21 年から改築工事を実施していた浅草文化観光センターが、平成 24 年 4 月 20 日に開業。



▲浅草文化観光センター

### 7 にぎわいを誘導する街並み整備の誘導・推進

#### ①六区興行街地区整備

平成 23 年に浅草六区地区地区計画を都市計画決定し、行為の届出及び届出内容の審査により、魅力ある興行街の再生を図ってきた。

令和元年度には、浅草六区ブロードウェイが国家戦略特区の認定を受け、(一社)浅草六区エリアマネジメント協会が、オープンカフェやイベントを実施するなど、にぎわいの誘導に貢献している。

今後も、エリアマネジメント協会をはじめ地域と協働し、にぎわいの誘導を図っていく必要がある。

#### 【トピック】

・国家戦略特区(国家戦略道路占用事業)の認定(令和元年度)

令和元年 9 月 30 日、浅草六区ブロードウェイが、オープンカフェ設置や各種イベント等の開催が可能となる国家戦略特区(国家戦略道路占用事業)に認定。

### 8 街並み整備と連動した歩行者空間の整備

商店街における環境整備事業や無電柱化をはじめとする道路事業の実施により、歩行者空間の整備を行ってきた。引き続き、より快適な歩行空間を検討していく必要がある。

#### 【トピック】

・言問通りで、東京ストリートヒューマン 1st 事業開始(令和 3 年～)

旧シンボルロード整備事業を改定し、多様な人々が集い楽しむ歩行空間に向けた景観整備を行うため、「東京ストリートヒューマン 1st 事業」の事業計画を策定。

※計画において、言問通りの国際通り～馬道交差点(0.6km)が整備路線に位置付け。

### 10 安心・安全まちづくりの充実

区では、学校・保育園・児童館等の子どもに関係する施設を中心に、毎日午前 7 時から午後 7 時まで、子どもの安全巡回パトロールを実施し、子供の安全確保と地域の犯罪抑止を図っている。安心・安全なまちづくりのため、引き続き取り組んでいく必要がある。

●水辺活性化プロジェクト

1.2 水上交通拠点の整備

浅草東参道二天門防災船着場が平成 23 年に完成し、平成 28 年には一般開放が開始されている。水上交通の充実のため、事業者への周知等により、定期船・不定期船の利用を促進していく必要がある。

【トピック】

- ・浅草二天門防災船着場一般開放（平成 28 年）  
隅田川右岸にある「台東区浅草東参道二天門防災船着場」を一般開放。防災目的の船舶や定期船、不定期船等の営業船舶が利用可能。



▲二天門防災船着場

1.3 川並み景観づくりへの誘導

平成 23 年に策定した景観計画に基づいた運用を実施し、川並み景観の保全を図ってきた。平成 25 年度には、河川空間の規制緩和により、オープンカフェが出店されるなど、魅力的な川並み景観の誘導が図られている。今後も、魅力的な川並み景観づくりに向けて、適正な運用を継続する必要がある。

また、まちづくりの進捗や建物の更新にあわせたスーパー堤防の整備による、広域的な防災性向上についても、検討していく必要がある。

【トピック】

- ・隅田川の河川敷地を利用したオープンカフェ出店（平成 25 年度）  
河川空間の規制緩和に伴う「河川敷地占用許可準則」の改正により、都内初の民間事業者による河川敷地を利用したオープンカフェとして、平成 25 年 12 月に 2 店舗がオープン。



▲隅田公園オープンカフェ

1.4 緑と水辺を活かす隅田公園づくり

隅田公園再生整備計画により、吾妻橋周辺（Cゾーン）から整備を実施してきたが、平成 27 年度の山谷堀広場の整備をもって、計画は終了している。

その後、平成 28 年度からは、隅田公園が桜の名所であり続けるよう、サクラ再生事業を実施している。

今後も、隅田公園の魅力向上に向けた取組みを検討していく必要がある。

【トピック】

- ・山谷堀広場整備（平成 27 年度）  
多目的利用の推進、回遊性向上、防災機能の強化を図るため、多目的広場やエントランス広場及び園路の拡充や整備等を実施。

- ・隅田公園サクラ再生事業（平成 28 年度～）  
隅田公園が 100 年先も桜の名所であるように、施肥・土壌灌漑など生育環境の改善や古くなった枝を剪定し、新しい元気な枝を伸ばす「若返り剪定」などを実施。



▲サクラ再生計画パンフレット